

特集 古代那須の国へようこそ — 侍塚古墳 —

◆侍塚古墳とは

大田原市湯津上、那須岳を源流とする那珂川の中流域の西側、右岸段丘上には、多くの古墳があります。その中心となるのが、日本一美しい古墳ともいわれる国指定史跡「侍塚古墳」です。侍塚古墳周辺には、古代那須の遺跡が残されており、古代の息吹を感じることができます。

「侍塚古墳」は、上侍塚古墳と下侍塚古墳の2基があり、いずれも4世紀後半に築造されたと考えられ、前方後方墳という形をした古墳です。

古墳時代の那須地域では、前方後方墳が多いのが特徴です。古墳がさかんに造られた3世紀後半〜7世紀を古墳時代と呼んでいます。栃木県内では、古墳時代の初めの頃に、まず那須地域に前方後方墳が続けて6基造られるのです。

また、上侍塚古墳の北側には、同じく前方後方墳である上侍塚北古墳があり、下侍塚古墳の北側には8基の円墳や前方後円墳からなる侍塚古墳群が点在しています。



○上侍塚古墳〔国指定史跡〕

墳丘全長114mの前方後方墳です。那須地域の古墳の中では最大規模を誇り、栃木県内の前方後方墳においても、足利市の藤本観音山古墳（116・5m）に次ぐ大きさです。

墳丘には葦石が確認されています。また、周溝については、西側の水田部分に一段低い面として痕跡が残っています。



上侍塚古墳（西側）

○下侍塚古墳〔国指定史跡〕

上侍塚古墳の北約800mのところ位置する、墳丘全長84mの前方後方墳です。現在も墳丘には葦石が一部露出しています。

昭和50年（1975）の湯津上村教育委員会（当時）による周溝等の発掘調査では、葦石が確認され、土師器壺などが出土しています。

また墳丘の周囲には、一段低い面が楕状に認められ、古墳の周溝と考えられています。



下侍塚古墳（東側）

◆侍塚古墳の発掘調査

延宝4 1676	4月	大金重貞、備前湯津上村の古碑の話をきく。 重貞、古碑を調べ目録『那須記』に記す。
天和3 1683	6月	徳川光圀、那須七騎居館上覧のため3回目の武茂郷巡村。 重貞が案内し、『那須記』を献上する。 光圀、『那須記』に記された古碑に注目する。
貞享4 1687	9月	光圀、佐々宗淳に碑主の解明を命じる。 光圀、4回目の武茂郷巡村。 那須国造碑堂の建立を計画し、重貞を現地の実行者とする。
元禄4 1691	3月	国造碑堂建立に着手。 重貞、佐々宗淳の指示を受けながら、建立の指揮をとる。
元禄5 1692	2月	上・下侍塚古墳の発掘。
	3月	古墳からの出土品を松の箱に入れ、墳丘に埋納する。 古墳の整備も行なう。
	4月	国造碑堂建立に関する事業が終了する。 重貞、西山荘へ外出き、光圀へ事業完了の報告。
	6月	光圀、武茂郷へ5回目の巡村。

侍塚古墳の発掘と那須国造碑の保存

『那須記』に記された古碑に深い関心を持った光圀は、古碑の主を解明しようとした。重貞を現場責任者に任命し、まずは、古碑の周辺の発掘調査を行おうとします。時に貞享4年(1687)のことです。しかし、湯津上村は水戸領ではないため、現地の地主らとの調整などで実施までには4年の歳月を要しました。

元禄4年(1691)、いよいよ発掘調査が始まりました。しかし、残念ながら古碑の主の解明には至りませんでした。そこで、近くにあった「大墳墓」上侍塚古墳・下侍塚古墳を発掘することとなりました。

発掘調査により、両古墳からは様々な副葬品が出土しました。しかし、古碑の主を解明することはできませんでした。そこで、出土した遺物については絵図をとらせ、松の箱に入れて元の場所に埋め戻します。墳丘についても修復し、保護のため松の木を植えさせました。

古碑についても碑堂を建立し、周囲の土地を買い上げ、管理人の僧(別当)を置きました。全てが終了したのは約1年後の元禄5年のことです。

ちなみに、発掘調査・碑堂の建立にかかった費用は、全て水戸藩から支出されています。

◆侍塚古墳発掘調査の成果

・上侍塚古墳

元禄5年の調査の様子として、大金重貞著『湯津村車塚御修理』には、後方部の中央を5尺(約1.5m)余り掘ったところに鉄銚や管玉・石釧などが見つかったとあるので、この部分が埋葬施設だった可能性が高いと考えられます。

鉄銚などの下には、「先へな土ニテヌリ、其内ヲ墨也、漆ノねり土也、其内ニ朱少々有り」という部分があったと記されています。「へな土」は水の底にある粘質性の黒色の泥土で、その内側に墨・漆の練り土があり、さらにその内側に朱が少々あったといわれています。これは、外側に粘土層があり、その内側に木棺の腐蝕部分の痕跡があったのが、墨や漆の練り土のように見えたのではないかとされています。

上侍塚古墳	下侍塚古墳
鏡(銅文鏡か)	鏡(銅神面鏡か)
石釧	鉄銚
管玉	太刀柄頭
鉄銚	鉄刀身破片
鉄銚身	銚破片
銚破片	高坏
鉄刀身破片	鏝
高坏	

上・下侍塚古墳出土品 (元禄5年)

◆現在も受け継がれる文化財保護の心

光圀の命により行われた侍塚古墳・那須国造碑の調査・保護は、現在の文化財保護へと通じるものでした。下侍塚古墳は、ある考古学者によって「日本一美しい古墳」と賞されていますが、現在のこの「日本一美しい古墳」を守っているのは、地元のボランティア団体「侍塚古墳松守会」の方々です。霜降の日の「こも巻き」と啓蟄の日の「こも外し」は、大田原市の冬と春を告げる風物詩ともなっています。

長い年月の間、地域の人たちが中心となり守ってきた美しい古墳を、私たちも、また次の世代へと伝えていく責任があるでしょう。



「こも巻き」のようす

・下侍塚古墳

後方部の中央を5尺ほど掘って鏡や大刀破片などを発見しているものの、上侍塚古墳のような埋葬施設らしき特徴は『湯津村車塚御修理』に記されていません。あるいは簡単な粘土層程度の施設があったものと推測されます。

問
なす風土記の丘湯津上資料館
TEL (98) 3322